

2018 11/11

第一回

「地域って何？地域発見のいざない」

「塩田平は信濃の中心・

信濃第二の生島足島神社のふしぎ」

長野大学
市川正夫

なぜ・ふしぎから始まる学び

ある大学生の質問から

『なぜ長野大学のある上田市塩田地区(塩田平)は「**信州の鎌倉**」と呼ばれるのですか』

※興味・関心から始まる学びの必要性が重要ではないでしょうか！

1 鎌倉時代の鎌倉とは

- 1185年東国に初めて幕府が開かれた
- 平安時代の都は京から関東の鎌倉に移る。都が初めて西国から東国に移動した。
- 源平合戦などで大勢の人がなくなり、**源氏は贖罪の意味で寺社に寄り添い、寄進**などを行った。
- 文化的伝統がない**東国では新しく神仏に関する寺社をつくる必要(鎌倉五山)**があった。人心の把握、武士の心のよりどころ。
- なかでも、鎌倉幕府は信濃にある善光寺と塩田地区を重視し、**信濃と鎌倉を結ぶ「鎌倉道」**が多数あった。

2塩田平とはどんなところか

- 上田市南部で周囲を低山系の山や丘陵で囲まれた盆地で、塩田平とも呼ばれる。そこから駒瀬川、雨吹川などが流れ、それによる河岸段丘が多数ある。
- 最近まで大規模な農業地帯で米どころであった。現在は住宅や長野大学・上田女子短期大学、工場団地などがある。
- 上田駅と塩田西部の別所温泉を結ぶ、上田地区唯一の私鉄である別所線と呼ばれるローカル鉄道があり上田市内と結んでいる
- 塩田平は年間降水量が約900mmで、国内有数の寡雨(雨が少ない)地域である。

Q1

日本一の寡雨(かう)地域 (降水量の少ない地域) は
上田か北海道東部か

- ・ 北海道北見市常呂(ところ)町 700.4mm
美幌町716.5 十勝市800.0
- ・ 長野市932.7
- ・ 上田市890.8

まとめ

北海道東部が日本一少ない

北海道以外では上田市が最も少ない

※ 1981～2010年の平均値

塩田平の寡雨対策として①

溜池(ためいけ)は江戸中期500が最大で、現在140と減少している



国内でも珍しい 雨乞い(あまごい)祭り 「岳の幟(たけののぼり)」

塩田平で行われる雨乞いの祭り、岳の幟。国の重要無形民俗文化財に指定され、その起源は室町時代にさかのぼるとされる。(上田市)



塩田平では寡雨として②
山岳が信仰の対象地となり、また水源地であるため山頂には水神が祀られている。

- ①夫神岳はその名が拝みからきたもので**雨ごいの祭り「岳の幟」**
- ②独鈷山の山麓にある**塩野神社**には、清冽な溪流に架けられ**橋を渡って参拝する。富士岳神社など水と関係している。**
- ③国重要文化財の薬師堂がある**中禅寺**は、**独鈷山の支峰龍王山を山号**にしており、産川の上流野倉地区では**塩田水上神社**を祀る。
- ④雨乞いとして「千駄焚き」があり山頂で大火を焚いて神に祈る

Q2

なぜ長野県の盆地は寡雨地域になるのか

- ①長野県は日本アルプス・八ヶ岳・関東山地・三国山脈など南北に山地・山脈に囲まれている
- ②偏西風が多く、台風や低気圧による風や雨雲が屏風のような山地・山脈にさえぎられる



長野県の多くの盆地は寡雨(かう)地域であり、
また台風の被害も少ない

南北の山地・山脈に囲まれている



塩田平の歴史1

奈良時代

- ・ 都と東国を結ぶ**古代の官道(今の国道)であった東山道**
- ・ 生島足島神社が中心とした塩田庄（朝廷の記録）

平安時代末

- ・ 最勝光院(さいしょうこういん)の荘園で白布1060反、綾被物二重(かさね)の年貢（**稲、養蚕が盛んで機織りも行っていた**）
- ・ 8～10世紀の古代は**条里制水田**(県内では上田・長野・松本で8カ所)があり、信濃でも米どころ。

鎌倉時代

- ・ 嘉禄二年(1226)高僧の大明国師がこの地を「**信州の学海**」なりと称した。ここに**多くの寺院や僧侶**がいて、それを養うだけの**経済力**があった。その50年後塩田北条氏による鎌倉文化の全盛

鎌倉期、塩田平に信濃国の守護(県知事)が置かれたのはなぜ

- **信濃の最初の守護は北条重時**（北条氏二代目義時の三男、長兄の泰時とともに北条氏の基盤、執権の次に重要な**六波羅探題**に在職）は幕府でも重要な役についていたが、守護職につき信濃塩田平に赴いた。その後信濃の守護は重時の末裔が受け継ぐ
- 安楽寺八角三重塔をはじめ**国宝・国の重要文化財が多数**ある
- **鎌倉幕府に通じる伝承や遺跡、石造物が多数残る**
- 鎌倉期の文化財や遺物が集中的に残るのは県内ではここだけ
- 塩田平のふしぎとして、**北条氏の居館が不明**で守護所と兼ねていたのは独鈷山山麓の塩田城ではないかと推察される

塩田平の歴史2

江戸時代

- ・ 塩田三万石、上田藩の米蔵

明治以降

- ・ 600haの桑園、寡雨地帯のため旱魃に強い桑は適地。長野県の代表的な穀桑式農業地帯
- ・ 明治35年上小地方は長野県最大の銀行数、貯蓄高（八十二銀行の前身の十九銀行が上田にあった）

太平洋戦争後

- ・ 畑地はリンゴ、ブドウなどの果樹園へ。

近年

- ・ 住宅・学校・工場など

3なぜ塩田平には国宝(2)・国の重文(7)など寺社があるのか

- 信濃の名門社「生島足島神社」には国の重文である起請文がある。
塩田平の中心に位置する
- 国宝の「安楽寺八角三重塔」は国内唯一の八角の塔
別所温泉の裏山にあり散策コース
- 国宝の大宝寺三重塔
青木村にあり「見返りの塔」とも言われる
- 国の重要文化財の「中禅寺の薬師堂」「前山寺の三重塔」
独鈷山の麓にあり遊歩道が整備

鎌倉時代や室町時代の遺産が多くあり、なかでも鎌倉幕府の末期で滅びゆく幕府への挽歌となり、**塩田平は「中世の残照」**とも言われる。

4生島足島神社ってなにがすごいのか

- 塩田平の位置的に中心にある
- 一言でいうと「**皇室につながる科野(信濃)の国造りの神を祀り**
諏訪大社に次ぐ名門社」
- 祭神「生島神・足島神」で信濃最初の国造(くにのみやつこ、今の県知事)の**都から来た名門の金刺(かねさし)氏、他田(おさだ)氏**が勧請(かんせい、願って招き入れる)し国魂神(くにたまのかみ、**国土地霊の神**)として祀ったとある。(『古事記』)
- 本殿は切妻造り、拝殿は入母屋造り
- 『延喜式』(日本の神社の歴史)には生島足島神社は諏訪神社とともに「大社」で、**信濃では諏訪神社に次ぐ格式**

生島足島神社正面



5生島足島神社になぜに「島」が付くのか 御神体がないのはなぜか

- 古代「島」とは国土を指す。「生島神」とはその国土に住む人が生き生き生活できることをつかさどる神(発展)
- 「足島神」とは国土に住む人々が満ち足りて生活できるようにする神(充足)
- 御神体は「国土」そのもので鏡や玉、剣はない
- 御本殿の中にある社殿はなにもない「空」で、主食の稲や麦を恵んでくれる「土」が最もありがたいもの。
- 日本の古代信仰は最も古い神社とし三輪神社、諏訪神社では「山」が御神体で生島足島神社はこの格式と古さがある

御本殿と池



6生島足島神社ではなぜ池の中に神社があるのか

- **池の中に島を祀る形式**を「池心(いけごころ)の宮苑地式(みやえんちしき)」という
- 古代の**豪族が家の周囲に池や堀**をめぐらして、その**住まいに神を祀ったものと同じ**
- **国内で最も古い建築・庭園方式**

生島足島神社の全景

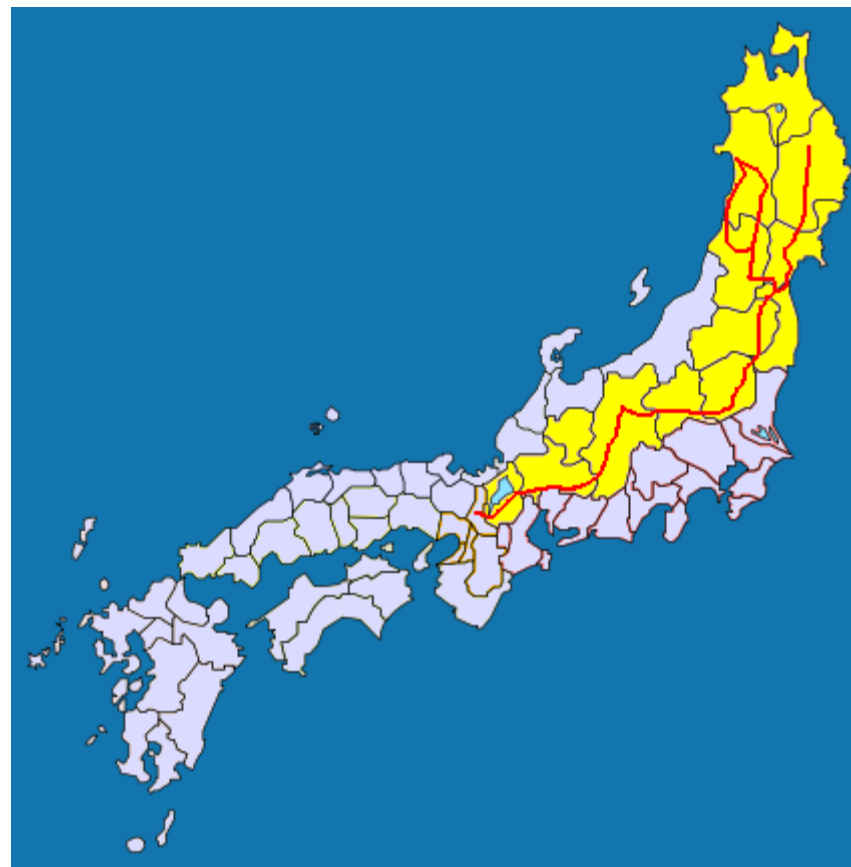


7 どうして格式高い生島足島神社が科野にあるのか
※科野とは信濃になる前の呼称

- 東山道の存在
- 東山道は古代、大和朝廷と対立する**東北地方の蝦夷(えぞ)を征服するための軍用道路**
- **都と東北地方の中間にあるのが科野**、ながでも上田と塩田は大和朝廷の征夷(せいし、蝦夷征伐)の前線基地

※6～7世紀大和朝廷が国内を支配するために七道(東海道・東山道・北陸道・山陽道・南海道・西海道)を開き、信濃上田を通過していたことは、上田は生産物が豊かであったことと交通の要地であった。

東山道のルート



8なぜ科野に宮中にある生島神と足島神が祀られたのか。古代塩田は信濃の中心。

- 大和朝廷は科野に有力豪族の「多氏(おおし)」一族を派遣
- 多氏は都から科野に下る際、宮中に祀られていた生島神と足島神を奉じ、神社に祀った
- 多氏は大和朝廷直系の一族、科野の国造(くにのみやつこ、今の県知事)に任命し、期待をしていた
- 塩田地区にある地名として「本郷」とは、多氏が治めた場所で、本郷は安宗(今は安曾)本郷ともいわれ、生島足島神社の西にあり、本殿も西にむけて建てられた

9なぜ生島足島神社に諏訪社本殿があるのか

- 摂社の**諏訪社**は生島足島神社の向い、**池の外**に建てられている
- 諏訪神である**タテミナカタノミコト**が出雲国から逃れた折、諏訪に入る前に**一時期この地に留まり、生島足島神に献身奉仕**をして通過することが許された。
- これは諏訪神が生島足島神に奉仕した姿のあらわれで、今でも「お遷(うつ)りの神事」として残る。

※この神事は諏訪神の霊代(たましろ)を本社である生島足島神社の内陣に移して、諏訪神は粥を炊き、くさぐさの魚菜を備えて生島足神に奉仕するもの

- 社殿は慶長15年(1610)上田城主の真田昌幸、桃山時代の代表的に遺構で一間社流造

生島足島神社内の諏訪神社



10守護と生島足島神社の関係とは

- 北条氏の有力な一族北条義政が建治3年(1277)連署(副執権)を辞して、塩田の前山にある塩田城に隠遁した。塩田は信濃の守護所として政治・経済の中心
- 北条義政の子、陸奥守国時(道佑)は生島足島神社を敬愛し、社殿を造営、大鐘を寄進←源平の争乱で荒廃した社殿を新設
- 北条義政・国時・俊時の50数年は塩田の鎌倉文化に寄与⇒
信州の鎌倉として多くの文化財が残る

11なぜ武田信玄は生島足島神社を利用

- 信濃攻略を目指した**信玄は生島足島神社に所領の安堵状**(領土の保証文)を与える。信濃の武士に対して格式高い神社を利用。
- 信玄は**川中島合戦出陣時の戦勝祈願の起請文**(武将が武田に忠誠を誓う)と自筆の願状を神社に寄進
 - ※起請文は83通、連なる武士237名で信濃武士の動向がわかる

12江戸時代には神社が軽視されたのはなぜ

生島足島神社の禄高

- 慶長6年(1601)40貫文
- 元和8年(1622)8貫730文

※江戸期は戦乱時代が終わり、**領主は寺社と結びつく必要がなくなったため**

地域を知ることの重要性とはなにか

- 1 地域にはいろいろな**資源が眠っている**
- 2 地域の**資源を掘り起こし、地域の人に誇りを持ってもらうこと**が重要では
- 3 地域を**科学的に分析する指導者の必要性**
- 4 近年、**地域指導者や研究者(専門の歴史家・博物館関係者)不足**が課題